

目標	課題	現 状	評価項目	※ 具体的方策	進捗状況	次年度の課題と改善策
1 入学生 の 確保	学生募集活動の強化による入試応募者の確保	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナなど社会情勢の変化 特に、令和3年度は新型コロナの影響で各種PRイベントを縮小。 高校生の絶対数の減少 学部・学科による応募者・入学者の変動 令和4年度の入学者数が過去5カ年平均より25%減。 	入学試験の応募数	1 学校紹介と学生募集活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> 高校訪問 80回以上(7月までに実施) 高校訪問資料を改善し、非農業系高校への推進強化 高校等への募集要項送付 160カ所 学生募集チラシの改善 高校教諭対象の説明会の開催 2回 農大生の出身校への訪問 10校10人 進路ガイダンス等への参加 20回以上 SNS, マスコミ, 機関誌等を活用した県外高校生への情報発信 学部別による募集働きかけ強化 <ul style="list-style-type: none"> 校内外の販売の場を活用した学校紹介の強化(農学部) 出身高校への学生の声レター送付(畜産学部) 	1 学校紹介と学生募集活動の強化 <ul style="list-style-type: none"> 高校訪問 4~8月 71校 86回 4年度農学部アンケート結果をもとに農大の魅力、普通科にも対応した高校訪問資料作成・活用 高校等への募集要項送付 6月172校 高校172校, 個別22カ所 農大の魅力, 学生活動写真を入れた学生募集チラシを作成, 送付 高校教諭対象の説明会 2回(5/10, 5/24) 農大生の出身校への訪問 5校5人 進路ガイダンス等への参加 15カ所 SNS, マスコミ, 機関誌等を活用した県外高校生への情報発信 農大ホームページやInstagram, 新聞等で学生募集やオープンキャンパス情報を積極的に発信 7/17 日本農業新聞情報掲示板コーナー掲載 学部別による募集働きかけ強化 <ul style="list-style-type: none"> 校外販売の場を活用した学校紹介の強化 2回 オープンキャンパスでの農産物販売会, 抽選会の実施(5/28, 8/20) 出身高校への学生の声レター送付 5月に畜産学部1年30名, 2年27名 計57名が送付 	1 学校紹介と学生募集活動の強化の継続 <ul style="list-style-type: none"> 学部別の募集の取り組みは, 進路に対応した情報を直接学生に伝えることができ, 入学生確保に直結すると思われるので, 重点的に取り組んでいく必要がある。 また, 今後の取り組みとして, 学生参画による学校PR活動を強化していく。 高校教諭対象の説明会を強化する(農学部)。 情報発信力の強化…興味関心を引くコンテンツを共有し, 情報発信のマニュアル化を検討する。 農大祭で実施した写真の展示を校外(県外)でも実施する。 各学科が柱とするカリキュラムの情報を発信する。
				2 オープンキャンパス等による学校PR <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスの実施 <ul style="list-style-type: none"> 新たな企画によるイベントの魅力アップ(学生参加型, 相談コーナー企画) 1・2年生向けの開催(2月開催) 小中高校生等の視察, 実習等の受入 	2 オープンキャンパス等による学校PR <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスの実施(5・8・2月) 学生が案内役となったオープンキャンパスの実施, 相談コーナーの設置(相談コーナー利用者11名) 参加者数 5/28 59人, 8/8(台風中止), 8/20 109人, 2/17 22人, 随時 個別対応 6人 計196人 小中高校生等の視察, 実習等の受入 11校 263人 高大連携による農業の魅力発信プロジェクト 11/6~7 5校 18人 	2 オープンキャンパス企画内容の魅力アップ <ul style="list-style-type: none"> 農大生の参画や新たな企画を追加し, 入試応募者数の確保につなげる。 アンケート調査から進路決定は3年1学期が一番多いことから, 早めの募集活動を検討する。
				3 地域振興局や同窓会等との連携 <ul style="list-style-type: none"> 地域振興局・支庁と連携した募集活動 <ul style="list-style-type: none"> 入試情報の送付 オープンキャンパスの対応協力 離島での進路ガイダンスへの対応協力 農大アシスターレターによる情報発信 同窓会広報誌を活用した学校PR 	3 地域振興局や同窓会等との連携 <ul style="list-style-type: none"> 地域振興局・支庁と連携した募集活動 <ul style="list-style-type: none"> 入試情報の送付 6月 16農政普及課(駐在含) オープンキャンパス対応協力 卒業生4人 離島での進路ガイダンスへの対応協力 3回(熊毛, 喜界, 徳之島, 沖永良部) 農大アシスターへの情報提供 3回 同窓会広報誌を活用した学校PR 1回 	3 農政普及課等との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> 農家子弟学生の割合減少の課題から, 特に農業者への情報提供や離島での進路ガイダンスにおいて取り組みを強化する。

<自己評価まとめ>

- 学校訪問や関係機関と連携による募集・周知活動は計画的に実施することができた。
- 学校紹介と学生募集活動は, 各学部による取り組み等により多くの高校生に農大の魅力を伝えた。
- 評価指標「入学試験応募者数」は目標104人以上に対し, 89人(C日程まで)。【前年(91人)】

評価指標	目 標	実績	達成度	達成度
1 入学試験応募者数	104人以上	89人 C日程まで 推薦 52人 一般 37人	B	A: 100%以上 B: 100%未満~80%以上 C: 80%未満~60%以上 D: 60%未満

令和5年度 鹿児島県立農業大学校評価シート

R6. 6. 18時点

目標	課題	現 状	評価項目	具体的方策	進捗状況 注：() 昨年度実績	次年度の課題 と改善策
2 学生教育の充実	学生の知識・技術向上	非農業系高校出身者、非農家等の学生が増えてきており、農業に関する基礎知識に格差がみられる。コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が不足している学生が多い。	課題解決能力向上 資格取得への取組	1 学習能力向上への取組 (1) プロジェクト学習に対する学生の意識付けと指導強化	1 プロジェクト意見発表等への取り組み 全国農業大学校プロジェクト・意見発表会 養成課程 プロジェクト発表：特別賞(優秀賞, 特別賞) 意見発表：特別賞(一) 研究過程 プロジェクト発表：最優秀賞(最優秀賞)	・ プロジェクト発表では、養成課程の部で特別賞、研究過程の部で最優秀賞、今年度は意見発表の部で特別賞を受賞し優秀な成績を収めた。
			・ 全国プロジェクト発表会入賞者 2名以上	(2) 論文作文コンクール応募への誘導、動機付けの強化 ・ 校内の応募者を増やす取組として、入学当初から、学生全員に対する作文指導や少数精鋭に対する個別指導を実施。	2 論文作文コンクール応募及び入賞数 (1) 第34回ヤンマー学生懸賞論文・作文 論文の部：全国応募数 39編 入賞 3編(3)/4編(4) 作文の部：全国応募数 415編 入賞 9編(9)/37編(19) (2) 毎日農業記録賞：応募数 1編 入選 1編 (3) 酪農の夢コンクール：応募数 2編 入賞者一編 入選 一編	・ 過去最高の12編が入賞し極めて優秀な成績を収めた。加えて5編が奨励賞を受賞。作文は応募数が2倍に増え、作文指導・個別指導の成果が現れた。
			・ ヤンマー懸賞論文等入賞者 2名以上	(3) 専攻学習や各講義による農業技術検定3級の取得 ・ 農業に関する基礎知識の強化	3 令和5年度卒業生の日本農業技術検定3級合格率 合格者数 28名÷受験者数 34名=合格率82.4% (82.9%)	・ 目標80%を上回り目標が達成出来た。今後も指導継続したい。
			・ 日本農業技術検定3級合格率 80%	2 各種免許、資格取得への取組 (1) 資格取得の推進と意識付けの強化 ・ 農大マイスター顕彰制度の周知と学生集会等における学生表彰 (2) 職員による希望学生に対する補習(農業簿記、危険物乙4、4年制大学3年次編入等)	4 各種免許・資格取得状況(2月末現在) 延べ合格者数 648名÷卒業生 60名 =1人当たり 10.8資格(11.5)	・ 免許・資格取得数は目標を達成しており、引き続き取得指導に取り組む。 ・ 農業簿記2級、危険物乙4は昨年度を上回る好成績を収めたが、農業簿記3級は下回った。試験対策の強化を図りたい。
・ 各種取得免許・資格数 9資格以上/人	3 農家留学研修指導 (1) 専攻学習を通じて基本的な管理作業習得 (2) 農家留学研修の事前研修会の実施 (3) 農家留学研修日誌の模擬記帳指導及び農業機械操作の習熟度アップ	5 合格率向上対策 (1) 農業技術検定、農業簿記：カリキュラムによる実施 農業技術検定3級：28名/34名=82.4% (82.9%) 農業簿記検定2級：3名/8名=37.5% (20.0%) " 3級：15名/58名=25.8% (32.0%) (2) 危険物乙4類講習会の実施(有資格者による講習) 合格実績 危険物乙4(2回分)：10名/67名=14.92% (11.3%) (3) 4年制大学3年次編入に向けた補習等の実施 合格者：農学部2名、畜産学部2名	6 受入農家を招いての農家留学研修事前研修会 ・ 事前研修(共通1日、各学科研修を実施) ・ 農家留学研修評価 優秀55%(60%), 普通33%(31%), 要努力12%(9%)	・ 研修の事前指導を強化するとともに、受入農家との連携を図る。		
・ 農家留学研修評価書の総合評価(優秀)70%以上	4 コミュニケーション力のアップ (1) 各種販売等で挨拶や礼儀作法、接客能力の習得 (2) 3分間スピーチ等でコミュニケーション能力の習得	7 校内販売等の実施(R6.1月末現在) (1) 校内販売実施数：37回(20回) (2) 出張販売実施数：8回(4回) 8 3分間スピーチ実施学科(1年生) (野菜科, 肉用牛科)	・ 新型コロナ感染拡大前の実施数に戻ってきたので、引き続き対面販売等を増やしていく。			

＜自己評価まとめ＞

全国プロジェクト発表会や論文作文コンクール等において優秀な成績を収めたことで、本校プロジェクト学習の質・内容の高さを内外に示すことができた。今後も積極的な応募を促していきたい。日本農業技術検定3級合格率が目標を上回ったのを始め、各種免許・資格は1人10種以上を取得出来た。学生の資質向上にも繋がることから、取得指導に取り組んでいく。農家留学研修は、「優秀」の割合が昨年度よりさらに低く目標達成が出来なかった。農家研修の目的などを、日頃の農場実習や事前研修の中で徹底して指導していく。

評価指標	目 標	実 績	達成度	達成度
1 全国プロジェクト発表会入賞者	2名以上	3名	A	A：100%以上
2 ヤンマー懸賞論文等入賞者	2名以上	12名	A	B：100%未満～80%以上
3 日本農業技術検定3級合格率	80%	82%	A	C：80%未満～60%以上
4 各種取得免許・資格数	1人当たり9資格以上	10.8	A	D：60%未満
5 農家留学研修評価書の総合評価(優秀)	70%以上	55%	C	

目標	課題	現 状	評価項目	具体的方策	進捗状況(実績)	次年度の課題と改善策
3 就農・就業の進路指導の充実	進路指導充実による就農率の向上	<ul style="list-style-type: none"> 農大の目的を達成するために就農率を高めることが必要である。 自分の適性や進路決定に迷うことがある。 インターンシップ等を活用して就農先を確定する等非農家学生の取り組みを強化する必要がある。 農業次世代人材投資資金受給希望学生の進路に応じて、資金制度の理解や個別指導を実施する必要がある。 	<p>○就農率 60% (研究科5名含む) 学生数60名 うち就農 36名(60%) (養成部門59名) うち自営6名</p> <p>○進路確定率97% 学生数60名 確定数58名</p> <p><参考> ○主な進路 就農:36名(前年48) 農業団体:3名(8) 関連企業:7名(16) 公務員:2名(7) 一般企業等:0名(2) 進学・研修:4名(8)</p>	<p>1 進路への早期動機付け (1) サポート体制の充実 ①農業法人等との面談の実施 ・就農就業相談会 ・個別面談の推進 ・かごしま就農・就業相談会 ②進路決定に対する意識啓発 ・進路支援セミナー ・就職研修会等 ③農業次世代人材投資資金活用指導(在学中) ・資金研修会による理解促進 ・申請時、給付後の個別指導 ④就農相談員設置(R5.8) (卒業後のスムーズな就農支援) (就農案内完全攻略マニュアル活用)</p> <p>(2) 早い段階での学生の就農・就業に対するイメージ作り ①意向調査、面談の実施 ②就職・就農事前研修会 ③求人内容等の情報提供 ④休業期間中のインターンシップ ⑤1年生対象に3日間のインターンシップ実施(試行)</p>	<p>1 進路への早期動機付け (1) サポート体制の充実 ① 就農就業相談会 (R5.5.31開催) ・ 農業法人・関連企業:67社参加(49社) ・ 関係機関・団体(振興局等):21団体参加(21団体) ・ 法人訪問学生数 延べ562名 8.3法人/人(8.8) (夏期休暇前に法人との個別面談、インターンシップを推進) ② 進路決定に対する意識啓発 ・ 進路支援セミナー(R6.3.13開催 1年生73名) 講師:ディーリンクス 代表 池元正美氏 内容:「就活力向上講座」 ・ 就職研修会 (R5.12.13開催) 講師:鹿児島労働局 雇用環境・均等室 講師:伊集院公共職業安定所 ③ 農業次世代人材投資資金活用指導(1月末現在) 新規申請者 1年生31名, 2年生1名 計32名 継続者 2年生25名 合計57名就農 ④ 就農相談員による相談実績: 計37名(1,2年学生) (農学部:1年17名,2年9名 畜産学部:2年11名(担任10名))</p> <p>(2) 早い段階での学生の就農・就業に対するイメージ作り ① かごしま就農・就業相談会 (R6.1.13開催) かごしま県民交流センター(主催:農農協会) ② 学生への求人情報提供:224件(2月13日現在)(139件) ③ インターンシップ実施状況 4~7月 農学部4名, 畜産学部0名 計4名 夏期休暇 農学部4名, 畜産学部3名 計7名 9~12月 農学部3名, 畜産学部3名 計6名 合計17名 ○ インターンシップ先に就職した学生:7名(野4名,豚3名) ○ 1年生インターンシップ実施学生数 計32名</p>	<p>1 就農相談会へ招聘する法人の選定については就職実績のある法人や就職の可能性のある法人,担任がリストアップし法人等から選定する。</p> <p>2 1年時から進路への意識付けを積極的・継続的に実施し,インターンシップをカリキュラム化する事で就職・就農意欲を高める。</p> <p>3 就農希望者に対しては早い段階から就農意識の醸成を図り,卒業時の就農率を100%達成できるよう指導する。</p> <p>4 関係機関との連携を図り農大在学中に認定新規就農者になるよう支援し卒業後のスムーズな就農へ繋げる。</p>
				<p>2 就職試験に対する指導強化 (1) ビジネスマナー講座(接遇研修会他) (2) 一般常識トレーニング(1年生) (3) 就職情報コーナー設置(R5.6)</p>	<p>(1) 接遇研修会 (R5.6.19開催) 78名受講,78名に資料配付 (2) 一般常識トレーニング研修(1年生) 通信教育を活用した一般常識の習得 (10/3,11/7,12/5,1/9,2/13:5回1年生1名果樹科1名) (3) 職員室(求人票,PC)と学生寮(求人票)に設置</p>	<p>5 定期的な面談を実施し学生の希望をくみ取り意向に沿って各種研修への参加を促す。</p>
				<p>3 経営基盤のない新規就農希望者の支援体制の強化(非農家等) (1) 就農就業相談会等による地域との連携</p>	<p>(1) 就農相談会等による地域との連携 各振興局及び駐在から就農就業担当者が出席し,管内の農業情勢等について情報提供と相談実施(大島を除く10地域10名参加)</p>	<p>6 振興局との連携をスムーズに進めるためさらに連携を密にする。</p>

<自己評価まとめ>

意向調査や個別面談等の実施により、早い段階での学生の就農・就業に対するイメージづくりに努めた。
また、就農相談会等での農業法人等との面談機会の設定やインターンシップの参加推進体制の強化など就農・就業促進にも努めた。進学や公務員等への就職が増えた一方、学生全体の就農率は目標に届かなかったが、今後も学生の進路希望に応じた支援体制を充実させ、就農希望者の就農率100%を目指す。

評価指標	目 標	実 績	達成度	達成度
1 就農率	68%	60%	88%	A:100%以上 B:100%未満~80%以上
2 卒業時点での進路確定率	95%	97%	100%	C:80%未満~60%以上 D:60%未満

令和5年度 鹿児島県立農業大学校評価シート

目標	課題	現 状	評価項目	具体的方策	進捗状況	次年度の課題と改善策
4 情 報 発 信 の 強 化	入学確保のターゲットとなる若い年齢層に魅力ある農大を発信	・これまでの農大における情報発信の取組概要 ①県HPに「学生募集」や、イベント情報（入学式、卒業式等）などの掲載 ②プロジェクト発表の入選者や学生が取り組んだ行事（農大祭等）を盛り込んだ冊子（農大この1年）を関係機関、高校等に配布 ③直近の農大生の活動状況等を盛り込んだ「アシスターレター」を卒業生等に配信 ④令和3年度からInstagramの取組を開始 ・上記の取組は行っているが学生の農大での活動情報が少ない。そもそも、学生が生き生きと活躍している情報が少ない。 ⇒ 入学確保のターゲットとなる若い年齢層に魅力ある農大を発信できていないのでは？	1 公式Instagramフォロワー数 (R4実績：687名) (R5実績：1,055名)	1 Instagramのフォロワー数の増加 (1) 農大内の情報収集・発信体制の充実による年間アップ数（R4：104回）の増加 (2) ターゲット層（若い年齢層）に合わせた情報発信（寮生活、部活動などの配信） ※一部ライブ配信 (3) ターゲット層（若い年齢層）による評価の活用（ターゲット層と同世代の学生にアンケート等の実施） (4) 運用ガイドラインの一部見直し	1 Instagramのフォロワー数の増加 (1) 農大内の情報収集・発信体制の充実による年間アップ数（R4：104回）の増加 ・ フォロワー数：1,055名（R6年3月31日時点） ・ アップ数：153回（R6年3月31日時点） (2) ターゲット層（若い年齢層）に合わせた情報発信（寮生活、部活動などの配信） → 様々な場所・場面での学生生活の写真（農場、寮、講義、発表会、農大祭、販売、機械稼働等）を掲載 ※一部、学生撮影写真（例：人工授精練習風景）を掲載 (3) ターゲット層（若い年齢層）による評価の活用（ターゲット層と同世代の学生にアンケート等の実施） → 効果的な発信の参考とするため、学生（新1年生）を対象にアンケートを実施を検討 (4) 運用ガイドラインの一部見直し → 効果的な発信に向け、①農大Instagramのアイコンの変更、②フォローの拡大を検討	(次年度の課題) ・ フォロワー数は増加したが、学科によっては、十分な入学確保にはつなげていない。 (改善策) ① 入学確保のターゲットとなる若い年齢層と同世代の学生の意見等を参考にすることで、より効果的な発信が可能となる。 ② 近年、県内外の農業高校や農業大学校等がInstagramを開設していることに鑑み、そうした学校をフォローすることで、より効果的な発信が可能となる
			2 農大紹介ビデオ活用数 ※ R3専業でビデオを作成した為、R3実績はなし (R4実績：31回)	2 農大紹介ビデオ（動画）等の活用 (1) 引き続き各種行事でフル活用 <活用目標> ○進路ガイダンス（15回） ○農大視察研修（10回） ○オープンキャンパス（3回） ○農大祭、連携会議等（5回）	【R5農大紹介ビデオ（動画）等の活用実績（R6.3.31時点）】 ○進路ガイダンス（15回） ○農大視察研修（12回） ○オープンキャンパス（3回） ○農大祭、連携会議等（5回） 計35回	(次年度の課題・改善策) ・ 現行の取組を引き続き実施する。
			3 県ホームページ閲覧数 (R4実績：3,072回) (R5実績：2,921回)	1 県ホームページ閲覧数の増加 (1) HPの内容充実 ・ 時期ごとに主要行事等を HP 先頭ページ等に貼り付け ・ 農学部のミニ講義の新規掲載（農大の学習を体感してもらう） ・ 各科別の内容（情報等）充実 ・ 一部構成の見直し（研修部分等の位置づけの見直し） (2) イベント等における農大HPの紹介 ・ 校内販売における二次元コード紹介 ・ アクセスの多い校内販売コーナーを核としたリンクの貼り付け	1 県ホームページ閲覧数の増加 (1) HPの内容充実 ・ ホームページ検索実績（R5年4月～R6年3月） 4月：3,021, 5月：2,796, 6月：2,682, 7月：3,517 8月：2,868, 9月：2,838, 10月：3,775, 11月：2,987 12月：3,204, 1月：2,247, 2月：2,533, 3月：2,585 平均：2,921回 ・ 農学部のミニ講義の新規掲載 新規掲載に向けて掲載完了（R6.3.31時点） ・ 各科別の内容（情報等）充実 (2) イベント等における農大HPの紹介 ・ 校内販売における二次元コードの紹介 ・ アクセスの多い校内販売コーナーを核としたリンクの貼り付け	(次年度の課題) ・ ホームページの内容充実に努めているが、閲覧数は年々減少傾向。 (改善策) ・ 引き続き、HP の内容充実等に取り組む。

＜自己評価まとめ＞

- ・ ホームページによる情報発信については、農大HPの内容充実やイベント等における農大HPの紹介などに努めたが、検索数の多い農産物販売会の情報をInstagramでも告知しているため、目標に達しなかった。
- ・ 一方、Instagramによる情報発信については、年間アップ回数増加や、ターゲット層に合わせた情報発信（様々な場所・場面での学生生活等の掲載）に努めたことで、フォロワー数の増加につながった。また、農大紹介ビデオについても、進路ガイダンスをはじめ、様々な機会にフル活用し、前年度を上回る35回活用した。
- ・ しかし、学科によって、十分な入学確保につながったと考えられる場合とそうでない場合があったため、次年度は、入学確保のターゲットとなる年齢層に、目的とする情報がより効果的に伝達できる方法を検討する必要がある。

評価指標	目 標	実 績	達成度	達成度
1 公式Instagramフォロワー数	1,000名以上	1,055名	A	A：100%以上 B：100%未満～80%以上 C：80%未満～60%以上 D：60%未満
2 農大紹介ビデオ活用数	35回／年	35回／年	A	
3 ホームページ閲覧数	3,500回／月以上	2,921回／月	B	